

平成26年12月 広域交流対策特別委員会（付託）

平成26年12月17日（水）

〔委員会の概要〕

中山委員長

ただいまから、広域交流対策特別委員会を開会いたします。（10時33分）

直ちに議事に入ります。

本日の議題は当委員会に係る付議事件の調査についてであります。付議事件につきましては、お手元に御配付の議事次第のとおりであります。

まず、理事者において説明又は報告すべき事項があれば、これを受けたいと思います。

【報告事項】

- 企業誘致の推進について（資料①）

酒池商工労働部長

商工労働部より一点御報告をさせていただきます。企業誘致の推進についてであります。お手元の資料1を御覧ください。

企業誘致につきましては、成長分野にターゲットを絞った本県独自のワンストップサービスによる効果的な誘致活動を展開してきております。この度、徳島市に本社を置く船場化成株式会社が、阿波市の西長峰工場におきまして、ポリエチレン製品の生産量拡大のため新たな設備投資を行うこととなり、12名程度の新規雇用が予定されております。今後とも企業立地フォーラムの開催をはじめとした積極的な企業誘致活動を展開し、県内経済の活性化と雇用の創出に取り組んでまいります。

報告につきましては、以上でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

中山委員長

以上で報告は終わりました。

これより質疑に入ります。質疑をどうぞ。

北島委員

私からは、徳島阿波おどり空港について若干質問をさせていただきたいと思います。

徳島阿波おどり空港につきましては、今年の3月から東京路線の12往復便化とか、夏場の期間限定の札幌便の再開等によりまして、航空路線の充実が図られたところでございます。また、今年度中には供用される予定の四国横断自動車道の松茂スマートインターチェンジが設置され、徳島空港が直結、徳島空港線と高速道路が連結されるということで、陸上、また空の便の利便性の向上が図られる年を迎えようとしております。そういうことから、今年度の上半期、4月から9月までの徳島阿波おどり空港の利用実績について、まず聞かせていただきたいと思います。

岡本交通戦略課長

徳島阿波おどり空港の上半期の利用実績について御質問を頂いたところでございます。徳島阿波おどり空港では、本年3月から東京線が過去最大の12往復便化、また、本年8月には1か月の季節便ではございますけれども、札幌線が4年ぶりに再開をいたしたところでございます。国内定期路線の利用者数につきましても増加傾向が続いておりまして、平成24年度には、5年ぶりに80万人を超えたところでございまして、昨年度は東京線が過去最大となるなど、有償の旅客数でございますけれども、89万8,703人に達したというところでございます。今年度上半期、4月から9月まででございまして、今年度に入りましても増加傾向は続いております、この期間の利用者数につきましては、昨年の上半期と比べまして、従来の東京線、福岡線について比較をいたしますと、約7.1パーセント、また、好調でございました札幌線のほうも含めると、約7.7パーセントの増加ということで、堅調な利用実績が続いております。

#### 北島委員

今御報告いただきました今年度の上半期、4月から9月の利用者数は、従来の東京線と福岡線を合わせて、昨年の同時期と比べまして、約7.1パーセントの増加と。また、季節便の札幌線と合わせると7.7パーセントの増加というところでございますが、一方、東京線の増便によりまして、この影響で国際線のチャーター便というのが、この間新聞にも出ておりましたが、発着0ということでございます。こういうことで、発着枠の確保が困難になったということなんでしょうが、去年は、夏場に香港から国際線のチャーター便が連続で、来るほうばかりですけれども、入国ばかりですけれども、外国人の、主には中国人の観光客が来県して、県内の経済効果もかなり上がったということも聞いております。そして、訪日外国人旅行者については、昨年度初めて、国内一千万人を超えた。今年はそのを上回る過去最高を記録することが確実であるということも聞いております。海外から多くの観光客を本県へ呼び込んで、県内の観光、また経済の発展につなげるということが重要であろうと思いますが、先ほど申し上げましたように、国内線の増便等によって、チャーター便の誘致が大変困難というような状況にあらうかと思っておりますので、これについての有効な手段が、これから大変必要になると思っております。

私が昨年の2月定例会におきまして、徳島阿波おどり空港の更なる利用促進と航空機の受入体制の確保のための取組、これについて一般質問を行いました。その時に、知事からの答弁は、今後更に新規路線の開拓やチャーター便の誘致を行っていくためには、安定した航空機の乗り入れ体制を確保するための機能や設備などについて検証を行う必要があると、そして、徳島阿波おどり空港の利用者動向や需要の予測、また必要となる対策などについての調査に着手するという答弁でございましたが、もう1年近くたとうとしておりますが、現在までの検討状況についてお聞かせいただきたいと思っております。

#### 岡本交通戦略課長

現在行っております徳島阿波おどり空港の機能強化の調査について御質問を頂いたところでございます。

徳島阿波おどり空港では、東京線の増便など国内定期路線の充実が図られてきておることに伴いまして、発着枠のほうも混雑をしてきており、現在の空港施設では、国内定期路

線の充実に制約が生じるとともに、現在のダイヤにおきましては、朝夕の時間帯を除きまして国際チャーター便の発着を確保することが困難な状況になってございます。また、先ほどもお答えをさせていただきましたけれども、国内定期路線の利用者数の増加傾向も続いておりまして、札幌線も好調な利用実績ということで、来期以降の運航にも期待が膨らむ結果となっております。今年度、空港機能の強化につきましては、一般財団法人地方自治研究機構と協同いたしまして、調査・研究を行っております。この中で、需要予測でありますとか、空港を取り巻く環境の変化などを調査いたしておりますし、また、先ほど申し上げましたチャーター便、国内路線の状況というところもございますので、既存施設での対応には限界があるということで、具体的な施設整備に係る方向性についても議論をいたしております。年度末までに取りまとめを行うこととしております。

もう少しお時間を頂戴することになりますけれども、その内容を踏まえながら、今後の徳島阿波おどり空港の機能強化に取り組んでまいりたいと考えてございます。

#### 北島委員

これは県土整備部から平成26年度の事業計画を出していただいたものですが、この徳島阿波おどり空港国際便対応機能向上事業ということで、これによりますと、今年度当初予算額は4,200万円を計上して、税関の取調室、また国際便の専用トイレ、これらを整備するという事となっておりますが、この上半期の国内線の利用状況、あるいは国際線のチャーター便の発着枠などを踏まえれば、ボーディングブリッジとか搭乗待合室というほかの設備が必要と考えますが、これの現状とこれからどういう設備が必要と思っておられるか、お伺いしたいと思います。

#### 岡本交通戦略課長

徳島阿波おどり空港国際便対応機能向上事業につきましては、昨年の香港のチャーター便の受入れをしてきた中で、いろいろと必要性が判明いたしました税関取調室と国際便のお客さんの専用トイレを整備するものでございまして、今年度、増改築工事を実施する予定としておったものでございます。しかしながら先ほどもお答えをさせていただきましたが、国内定期路線の充実でありますとか利用者数の増加傾向により、国際便の対応機能のみならず国内線の対応機能の向上を図る必要も出てきたというところもございまして、国内線と国際便を合わせました空港全体の機能強化について、ハード面の整備を含めて十分に検討する必要が出てきておるところでございます。

そういったところもございまして、効率的で効果的な機能強化を図るために、税関取調室及び国際便専用トイレの整備、こちらにつきましては調査の結果が出るまで着工のほうを留保させていただくとともに、税関取調室及び国際便専用トイレ、また委員から御指摘もございましたボーディングブリッジなど、これらの機能も含めて、施設整備の在り方について調査の中でしっかりと検討していきたいと考えてございます。

#### 北島委員

徳島阿波おどり空港というのは、徳島にとりましては空の玄関、窓口ということで、大変重要な施設でございます。四国の他県の3空港の状況は、詳しく私は分かりませんが、

高松にはLCC、松山空港にもLCCの春秋航空とか、格安航空便が週に3便とか就航されており、かなり国際線に対する利用度が高まっていると思うんです。高松空港、松山空港は。高知はちょっと余り聞いたことはないですけども。そういうことで、徳島はかなり遅れていると言わざるを得ません。そういうところで、今お話がありましたように、県は一般財団法人地方自治研究機構というところと協同して航空機能の強化に関する調査研究を今年度までにまとめるというお話でございますが、この近年の利用動向とか、具体的な施設整備の方法について、中長期的な視点に立って検討を行っていただいて、国内線と国際線の両方を利用する方々の利便性が向上するように、そしてまた今申し上げましたように、国際線、チャーター便が0というようなことでございますが、早く受けることができる体制を、方向性を決めていただいて、先ほども申し上げましたように、高速道路と空港線も直結されますので、利便性の向上を大いに図るためにも、ハード面の整備を早い機会にやっていただきたいということを強く要望して終わりたいと思います。

#### 岡委員

何点かお聞きしたいと思います。

事前委員会の時に川端副委員長のほうから今年の4月から9月の明石海峡大橋と大鳴門橋の通行台数についての質問がありまして、明石海峡大橋が3万6,465台、大鳴門橋が2万4,468台ということで、大鳴門橋の通行台数が1万2,000台も少ないのはどうしてかという、対策をいろいろしなくてはいけないのではないかというような質問がありましたけれども、更に言いますと、大鳴門橋を2万4,000台が通過しても、ではその中で何台が徳島に降りてくれて、どうしてくれよるのかということが非常に大きな課題だろうと思うんです。現状を把握した上で、大体徳島に2万4,000台が入ってきたら、どれくらいの人が徳島で降りて、どういうルートでどういう所に行きよるとかというような分析が必要だと思うんですけれども、この2万4,000台の中で、徳島で降りている方の大体の把握はできておりますでしょうか。

#### 新居道路政策課長

大鳴門橋を通過して、徳島で大体どのくらい降りておられるのかという御質問でございます。大鳴門橋の交通量2万4,000台というのが、上り下り両方合わせたものでございます。徳島方面、淡路方面、どういう割合かということで、本四高速に問合せしましたところ、ほぼ同数、半分ずつだということで、徳島側の通行台数、約半分ということになりますと一万二千台ぐらいということになりますけれども、その中で、鳴門北インターチェンジで降りているのが約20パーセント、鳴門インターチェンジで降りているのが約40パーセントということで、合わせて約60パーセントが徳島で降りておると聞いております。

#### 岡委員

1万2,000台の60パーセントですから7,000台少々ぐらいが降りていただいとるということだと思います。この間の答弁だったら2万4,468台が入ってきよんかなという印象を受けましたんで、実際に徳島へきていただきよる方というのは、それよりも大分実数は少ないということになりますよね。もちろん通行量が増えていけば、それだけ徳島で降りてく

れる人も増えるのかなと、大体、台数が増えたらその割合ぐらいは降りてくれるのかなと思うんですけども、通行台数をどう増やしていこうかということはもちろん考えていかないといけないんですけども、そのことに対して、取組であったりとか、どのような対策を立てていこうとしているのかというのをちょっとお聞かせいただきたいと思えます。

#### 新居道路政策課長

大鳴門橋の通行台数の増加に向けて、今後どのように取り組むのかといった質問だと思います。

まず道路の利用を促進するためには、道路の利便性の向上、それから道路の機能強化を図る必要があると考えております。このためには、利用者が目的地まで円滑に移動できるよう、高速道路のネットワークをしっかりと整備することが重要であると考えております。

特に今年度は、四国横断自動車道鳴門―徳島間が完成いたします。そして本四高速の神戸淡路鳴門自動車道と徳島自動車道が直結されます。それから松茂パーキングエリアにスマートインターチェンジが併設されまして、徳島阿波おどり空港とも直結されるということで、道路の利用者の利便性は飛躍的に向上するということで、道路の利用促進にも大きく寄与するのではないかと期待しておるところでございます。

それから、これに続きます横断自動車道でございますが、徳島ジャンクションから徳島東インターチェンジ間、この区間につきましても平成31年度の供用を目標として、現在NEXCO西日本において整備が推進されておる状況でございますので、県としても積極的に協力してまいりたいと思えます。さらに四国横断自動車道の徳島東―阿南間、それに続く地域高規格道路、阿南安芸自動車道、桑野道路、福井道路についても、国におきまして整備が鋭意推進されております。県南地域の高速道路の空白区間の解消に向けまして、引き続き県としても積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

こういった広域交通ネットワークの整備といったハード施策につきましても、着実に進めていくことで、大鳴門橋も含めた利用促進に資するものと考えておりますが、相当な経費と時間が必要となることから、利用促進を進めるためには、ソフト施策につきましても併せて進めていく必要があると認識しておるところでございます。

そこで、ソフト施策としましては、観光部局などとも連携いたしまして、県外のサービスエリアやパーキングエリアにおきまして、近くて魅力ある徳島をしっかりとアピールいたしまして、本県を訪れるマイカー客の誘客、これを強力に促進してまいりたいと考えております。

それから、来年の平成27年につきましても、大鳴門橋開通30周年のメモリアルイヤーに当たります。そこで共通料金化の効果を一過性のものに終わらせることなく、年間を通じまして徳島の食や観光文化など本県の魅力を生かした事業、今定例会の補正予算案におきましても関係各課からは提案させていただいておりますが、例えば来年3月頃の鳴門の渦開きに合わせたオープニングイベントや30周年のPR事業、それから来年3月の下旬から淡路島で開催される淡路花博2015におけます本県の観光や物産に関するPR事業、こういった事業を展開することによりまして、大鳴門橋を含む神戸淡路鳴門自動車道の利用促進にもつなげてまいりたいと考えております。

## 岡委員

答弁にもありましたように、当然、ハード整備というのはお金もかかりますし、時間もかかるので、しっかりと着実に進めていただきたいと思いますと思うんですけども、やはりすぐにできないものですから、ソフト対策であったり、お話の中にもあったように徳島に魅力を感じてきていただける方を増やしていけば、恐らく通行量も増えていくことになると思いますので、観光部局としっかりと連携をしながら、通行台数の増に取り組んでいただきたいと思います。

大鳴門橋を渡っていただく人を増やすために、肝腎なところで観光というのがあると思うんですけども、平成25年、これもこの間答弁があったんですかね、何回か聞きましたけれども、平成25年の宿泊者数が226万人で、前年から44万人増えたという分析、県全体で1年合計で44万人増えたという話は頂きました。それはそれで非常に喜ばしいことですし、引き続き観光・宿泊者数の増に取り組んでいただかなければならぬですけれども、その分析というのがどうなっているのかというのがちょっと気になるんです。例えば県内の各圏域、今だったら大きく分けたら東部と西部と南部がありますけれども、そこでどれぐらいの人数が増えてトータルで44万人になったのか、例えば何月に増えたのか、全体的に微増しているのか、この月だけが極端に多いという月があったのかとか、何かこの時期に人が増えているのは大きいイベントがあったのか、特にイベントもないのにこの時期に人が増えているのか、それから増え続けているのか、その一時だけ上がってぽんと減ってしまっているのか、とかいうようなことを分析をしないことには観光戦略というのは立てられないのかなと。

まずは現状を把握して、先ほども言いましたけれども、例えば恐らく皆さん方も想像は簡単にできるでしょうけれども、8月といたら多分徳島県での観光客が一番多いんですよ、阿波踊りがありますので。

だけど、それも阿波踊りにきて、そういうことがあったら分かりやすいですけれども、例えば11月にぽんと上がるとるんだったら、そこで例えばビジネスのイベントがあつてそれにきとったのか、それか何か地域でイベントやっている所に人が集まってきたのか、それとも特に大きいイベントもないのにその時期に例えば西の人が増えとるとか、南の人が増えとるとかいうようなことがもしあるのであれば、それって多分我々がまだはつきり気付いてない徳島の強みだろうと思うんですね。よその県の人から見たら、わざわざそういう阿波踊りとか大きいイベントがある時期を外してまできてくれとるとするのは、多分ものすごいコンテンツなんだろうし、それを伸ばしていく。また逆にどんと落ちこんどる月があるとかいうことがあれば、そこはどういうてこ入れをしていかなければいけないのか、何が足りないのか、どういうことをしないといかんのかというニーズ把握をまずしないといかんと思うんです。

その辺の現状の分析というものをどのように捉えておられるのかというのをお聞きしたいと思います。

## 仁木観光政策課長

宿泊者数の月別や圏域別等での分析ということでございます。

平成25年は、暦年でございますけれども、1年間での宿泊者数が約226万人ということで、県全体的に見ますと特に秋口から以降、対前年比で大きく伸びてきている状況でございます。平成26年の本四高速の全国共通料金制度の導入でありますとか、四国霊場の開創1200年、これを見据えまして昨年度から観光のキャンペーンを打ってきてございますので、そうした効果も出てきたのではないかと全体としては考えております。

また、平成25年1年間を月別に分析いたしますと、県内全体を通じまして、やはり12月、1月、2月、この冬場は一番少ない時期になっております。

それからこれを圏域別に分析いたしますと、県東部、やはり8月が一番多い。次いで10月、11月、秋という時期になっております。これは8月はもちろん阿波踊りがございまして、夏休み。それから秋につきましては、「マチ★アソビ」でありますとか、狸まつりたぬきでありますとか、様々なイベントも開催されておる。それから、特に特殊性といたしまして、コンベンションが昨年、平成25年8月、11月に大きな全国大会等がございました。こういった要因もあったものと思えます。

次に南部でありますけれども、南部につきましては、昨年、最も多かったのが4月、5月、春でございました。これは、太龍寺のロープウェーなど、お遍路での入り込みと時期がリンクをしております。次いで8月でございます。

それから県西部を見ますと、やはり8月が一番多い。次いで、秋の9月、10月、11月のシーズン、紅葉のシーズンが多い。これも8月には阿波踊りがございましたり、秋口には大歩危のリバーフェスティバルや平家まつり、また妖怪まつりなど様々なイベントもございましたし、紅葉のシーズンであるといったことが最も大きかったのかなと思えます。全体的な状況は以上でございます。

## 岡委員

やっぱりイベント頼みになってしまって、当然イベントを開催するときにはたくさんの方にきていただきたいので、いろんな施策を打つ。もちろん経費も掛けるということをするんで人を集めやすいですし、その時期にぼんと増えると。平成25年に関しては大きいコンベンションが2回ほどあったということで、その時期に増えとるというのは、それはそれでいいとは思いますが、やはり観光っていうのはイベント頼みになってしまうと結局は、まあ阿波踊りなんかはもう全国の方々に知っていただけてますし、それなりに安定した集客が見込めるんでしょうけれども、他のイベントになると、目新しいものを次から次へと、来年は違うことをせないかん。また再来年は違うことをせないかん。多分同じことばかりしよったら飽きもくるでしょうし、そこに関して人が入ってくるというのは恐らくだんだん減っていくような形になるおそれがあると思うんです。

だから、イベントがきっかけでも結構ですので、せっかく入ってきていただいている方々を、徳島の強みというところでどういうふうに誘導していくのか。見ていただいて、またこの時期に徳島にきたいなとか、冬の時期ってどんなことしよんだらうとか、春にも行ってみようかっていうようなきっかけにさせていただくためのイベントであって、イベントにとにかく人を呼んで、はい、イベントが成功しました、良かったですね、で終わってしまったらいかんと思うんです。

イベントで人がきよるというのは分かりました。コンベンションも全国各地でいろんな

所が一生懸命誘致合戦をして、その中で、平成25年度は大きいコンベンションが2件取れたと、これは大したもんだと思います。ただ、そこからもう一步進めて、観光立県ということを出しとるわけですから、どのような形で今後の観光に対する施策というものの方向性を出していくのかということのをちょっとお聞かせいただきたいと思います。

#### 仁木観光政策課長

イベントは集客の効果としては非常に大きいものがございます。しかし、やはりイベントはその当日は多くの方がお越しになりますけれども、イベントが終われば、そのイベントに来るお客様はこないということがございますので、それをきっかけにしていかに通常時でもお客様を集めていくのかといった観点は非常に重要であると思います。

今の旅行のトレンドを見てみますと、個人旅行者が非常に多く、団体旅行が減っております。そこで、戦略的にはまず個人旅行者をメインターゲットとして誘客を進めていきたいと。

三点に分けてお話をしたいんですけども、一点目はコンテンツでございます。誘客コンテンツの整備。徳島県では自然であるとか文化、食とかいろんなすばらしい素材があるとよく言われます。しかし、ただその素材をそのままありますよというだけではなかなかお客様が行こうという気にならない、それをいかに加工をして組み合わせるテーマ性を持たせた物語性のある旅のプランとして作るのか、これが非常に重要であると思います。そこで、これは昨年度からスタートさせていただいて、PRをさせていただいているんですが、一つは女子旅でございます。F1、F2層をターゲットといたしまして、ゆる遍路、パワースポット、スイーツなんかを組み合わせた女子的徳島ときめき阿波旅というものを作らせていただいたり、それから夏休みはファミリーでアウトドアを楽しみましょうといったようなもの、それから秋には、これはこれからやっていきたいと思っておりますけれども、シニア世代の二人旅、熟年夫婦がのんびりとたまには夫婦でゆっくり旅をしましょうというふうな、そうしたところもターゲットとして捉えていきたいと考えています。

さらに、閑散期の冬場につきましては、各圏域とも非常に少ない時期でございますので、ここで周遊を促進する必要があるだろうということで、今年度初めてこの12月20日から3月末まででございますけれども、県内3圏域を舞台といたしまして宝探しイベントを開催させていただきます。そのイベントにつきましても周知が大事でございますので、じゃらんの旅行サイトに早速徳島のバナーを一番上に載せまして、目立つようにする。そして、宿泊の予約までそこできるといったような形にいたします。しかも、このイベントは宿泊をするより更にお得といったような仕掛けも行います。さらには、通年での阿波踊りのフル活用ということで、夏はもとより春、秋、毎日、そして、練習風景も観光資源にいたしますし、また、全国で阿波踊りをやっている関係者もものすごく多くの方がいらっしゃいます。こうした方に阿波踊りをきっかけにして通年でお盆以外の時に徳島にきていただけるような仕掛けもやっていきたいと思っております。

二点目は情報発信で、直接旅行愛好者の方に届くような効果的な発信をやっていくこと。

三点目に、旅行会社の旅行商品の造成に向けまして、着地型旅行商品を作って、出発地側の旅行会社に売っていく。さらには、特に冬場、貸切バス料金が上がっておりますので、このバスに対する助成制度をスタートさせて、そして、徳島へきて泊まっていたら



バス代に対して助成があるというふうな形にすると。いろいろと今後も効果の高いところに重点的に打っていく形で戦略的に進めていきたいと考えてございます。

#### 岡委員

今まで恐らく観光の分野でもそうでしょう、この委員会でもそうでしょうけれども、徳島はいい素材がある、それはそうなんですけれども、やはり打ち出しが余りにも弱いつてというのが弱点だったと。発信の仕方がちょっとまずいというか、もうちょっとやり方を考えてやらないかんかったんだろうなと思います。いい例が「vs東京」で、私個人の意見ですけれども、一回聞いたことがあるんです、例えばどんなもので「vs東京」をするんですかと。10個ぐらい挙げてくれましたけれども、今までも言よったでえなあということなんですよね、内容的には。だけど、「vs東京」ってすることによって関西圏のテレビ局が食いついてきて、新聞には大きく載り、しかも批判も、賛否両論の議論を巻き起こすような打ち出しができた、今まで徳島を知らなかった人にも知ってもらうことができたと思います。

ですから、これから発信というものが非常に大事なツールになってくると思います。なかなか経費を掛けてやるっていうたら難しいですけれども、費用対効果というのを考えて、たとえ一千万円掛かったって、それ以上の効果があると思ったら、私はやるべきだろうと思ってますし、やはり観光でどういう所にきてもらって、女子旅とかもいいと思います、じゃらん載せてっていうのも。より多くの人に目に留めていただいて、ちょっとでも興味を持っていただいて、一度足を運んでいただく。きていただいたら本当に良さは感じていただけると思いますし、またそこで、県にきていただいたときの仕掛けをしっかりとしていく中で、またリピーターになってもらう。徳島って良かったよってというような声を広げてもらうということが、恐らく今後、徳島県は人口も減っていくと言われている中で、観光、交流人口を増やすっていうのはものすごい大きなテーマになってくると思います。その中でも観光というのは重責を担っていく部署になると思いますんで、しっかりとこれからもやっていっていただきたいと思います。

例えばもうイベント頼みで、イベントをやって、人がきたから良かったなで終わらんように。もう一回きてもらう、違う所にきてもらう、違う季節にきてもらうということをお客さんをもう一回、引き戻してくるって言ったら言葉は悪いんですけれども、それぐらいの勢いで取り組んでいっていただきたいと思います。

最後に一点だけ。今まで、6月、9月とも言ってきましたけれども、あの手形の件。何の報告もないんで、まだ決まってないと思うんですけれども、もし場所をこの辺にしたいということがあったら、先に議会に言ってください。今まで何回も言ってきましたけれども、答弁も結構です。どうせろくな答えが返ってきませんので。あれが観光誘客につながるわけでもなしに、にぎわいづくりにつながるわけもないというのは、私は100パーセント確信しておりますので、これ以上の無駄遣いをしないように強くお願いして質問を終わります。

#### 井川委員

この前の本会議で御答弁を頂いたところでありますが、地域商社について、今のところ

構想かも知れませんが、具体的に分かりましたらお教えいただきたいと思います。

#### 藪下国際戦略課長

ただいま委員から地域商社の関係について御質問を頂きました。

本会議の一般質問のほうでも御答弁させていただいた内容でございますけれども、地域商社につきましては、県内の小規模企業が海外で展開を図る上で課題となっております、例えば輸送コストの削減、それから売り込み先の確保、貿易リスクの管理、こういった問題を一括して解決するということを目的にしまして、本県産品を県内で一元的に集めまして、海外市場で販路開拓する機能を備えたいいわゆる地域商社、こういったものを育成する実証実験を本年行っているわけでございます。

平成26年度におきましては、日本の農林水産物輸出先の第1位であります香港での現地の百貨店、スーパーなどで販売ルートを持つ県内企業を地域商社として指定させていただきまして、その物流や商流を活用させていただいて、本県産品の海外での新規売り込み先の開拓、それから徳島フェアなどを連続して開催すること、こういったことでの取組によりまして、成果を上げるべく頑張っているところでございます。

#### 井川委員

この前、徳島文理大学の学生と話をする機会がありまして、卒業して何するんと聞いたら、実家が農家しとるから実家の後を継いで農業をするんですと。ああすばらしいなあって話をしよったんですけれども、その時いろいろ話し合っただけで、ちょうどその質問をした後だったんで、県が地域商社というか、いろいろ率先してやってくれるよという話をしたんですけれども、それはうれしいですねという話をして。そうしたら、県がロットとかを考えて、こんな物が売れるよとかそんな指導までやってくれるんだらうかとか。まあそこまでは無理ちゃうかとも話もしたんですが、まあ一農家っていうのは無理かも知れませんが、やる気がある農家に対しては、そういう指導もやってくれるようなものと考えてよろしいでしょうか。

#### 藪下国際戦略課長

小規模ロット等につきましても対応できるのかという内容の御質問かと思っております。

こちらにつきましても、やはり輸出に関しての一番の課題につきましても、そういった小規模、小ロットという部分につきましても、費用を掛けていくのが非常に大きなハードルになっているというのが現状でございます、こういったものが今までの海外展開、輸出へのハードルになってきたということがございます。

今回の地域商社につきましては、そういったものを、できるだけハードルを下げていくということの一つの大きな目的にしておりますので、具体的に今できるかどうかというのは即答しかねるところではございますけれども、やはりそういったものにつきましても私どものほうで御相談を受けさせていただいて、実際に指定させていただき、取り組んでいただいている企業がございまして、こちらのほうとも相談しながら個々のケースに当たっていききたいと思っておりますので、そういった形で御理解いただければと思います。

井川委員

どうなるかはこれからの話ですけれども、本当にすばらしい試みと思います。やはり若者が定住してくれる、ましてや一次産業、農業に従事してもらえる若者のためにも、もう少し小ロットというか、小さい農家にも耳を傾けて、そういう形のものを進めていっていただけたら有り難いかなと思います。

それともう一つ、「マチ★アソビ」であります。両国ですかね、私の知り合いの商店街で何軒か話を聞いて回っていたんですが、私はきっと、「マチ★アソビ」って商店街の人なんかはそんなによく思っていないんじゃないかなと思っていましたけれども、行って見て驚いたんですが、「マチ★アソビ」に来る人というのは物を買う時もみんな整列して、東京で食堂に入る、物を買うに行くように、みんな整列して、順番をきちんと守って、本当にみんなすばらしい。あんな人が集まるんだったら、もっともっと続けてもらいたい、こんな企画はいいですよという話を商店街の店主の方から聞きました。

へーっと私も驚いたところなんですけれども、もう数年続けてきて、いい企画であり、人も集まってると思いますが、とにかく継続してもらわないと困ると思います。継続に向けてどういう取組をやっているかということも何か案がありましたら教えていただきたいと思います。

新居にぎわいづくり課長

井川委員から、「マチ★アソビ」のこれからの展望と伺いますか、継続についてというお話を頂いたところでございます。

有り難いことに丸五年、13回続けることができしております。商店街の方にもお力をお借りしまして、特にその時は、使える空き店舗は全て空けて、そして東京からきていただいたエンターテイメント会社さんにゲームの新作とか原画展とか、いろんなことをしてにぎわいを作って、そしてゆくゆくは中心市街地の活性化にもつなげていきたいと思って続けておるところでございます。

これを継続していくことが本当に一番大切でございまして、今までやってこれたこともあって、今年度からは、ケーブルテレビで、日曜日の夜ですけれども、歩き遍路でキャラクターたちがお遍路を紹介する「八十八歩記」というものも放送できておりますし、また徳島新聞でも毎週火曜日に掲載してございまして、本当に初めはアニメというものが、徳島と全然違う所から入ってきた外来文化のようなイメージがあったのですが、四国の誇るべきお遍路という文化とアニメがコラボするといったような地元との結び付き、先ほど委員からお褒めいただいた商店街との結び付き、それからいろいろ買物する時の結び付きもあるんですけれども、徳島の街と結び付いていくため、そして文化と結び付いていくということで、今まで以上に幅の広いイベントに成長していこうとしております。継続していくということにつきましても、今申しましたような地元の方々のお支えと徳島固有の文化をアニメを使ってPRしていくというところで、より幹の太い、腰の据わったイベントとして続けていきたいと思っておりますので、どうかこれからも御指導、御支援いただければと思います。よろしく願いいたします。

井川委員

やはり継続というか、リピーターと思うんですよね、何年かしてからもう一回徳島に戻ってみたいなど。私はどんなに考えてもアニメというものはよく分からないところがありまして、何が楽しいのかなと実は思っておりますけれども、人が寄ってくるというのは非常にいいことだと思います。どんどんリピーターを増やしてもらいたいと思います。

それと高知なんかに行ったら皿鉢料理っていうんですかね、5時、6時になると皿鉢料理の店が、本当に素晴らしいきれいな店が何軒も街角を飾っております。やはり皿鉢料理という代表的な料理があって、カツオのたたき等々あって、やはり高知にもう一回行ってみたいなどという魅力があると思うんですけれども、徳島はそういうふうな郷土料理というのが、これが「推し」だというのがないと思うんです。そういうところを県はどういうふうに考えているのかちょっと教えていただきたいと思います。

#### 丸谷もうかるブランド推進課長

徳島の食についてでございます。

本県の優れた農林水産物は、まずは大河吉野川に恵まれてまして、暴れ川と言われるように何万年も氾濫を繰り返した結果、肥沃な大地となり、その大地が育んだ農林水産物。またその流れが海へ流れ込んでいいお魚が捕れるということで食材に恵まれております。そういったことで、食材第一の県であるというふうに考えております。郷土料理で有名なものがないんじゃないかというようなこともございます。ただ、素晴らしい食材に恵まれていますので、豊かな食文化というもの、例えばスタヂをかけるでありますとか、ユズを使うでありますとか、そういったことで、他県にはない食文化もございます。それをどういうふうにもまく発信していくかというようなところが問題だと考えております。

我々としては、今、地産地消協力店といいまして、徳島の食材をふんだんに使っていた料理を出していただく飲食店も、それからそれを販売していただく量販店、産直市等を登録しております。そういったことで対外的にも発信しております。ただ、それにつきましても、それぞれ工夫がされておりますけれども、これといった「推し」、そういったものがないと、少ないんじゃないかというようなところでございます。ただ、近年になりますとハモのように徳島の食材として全国に誇れる物を集中的にPRしようというようなハモ料理の展開も進めております。食材に恵まれただけに一つに集中できないという難点はありますけれども、そういった中であっても工夫を凝らして、いかに対外的に打ち出していくかというようなことも、これからも考えていきたい。については、我々農林水産部だけでなく、これを商工労働部局と連携をしっかりと図っていきまして、今、観光振興基本計画も策定中でありまして、その中でもしっかりと名物料理の打ち出しというの盛りに込んでいただいておりますので、関係部局も含めて努力していかねばと考えております。

#### 仁木観光政策課長

食は観光にとりまして非常に大きなファクターでございます。食べることを目的に旅先を決めるといった方も最近是非常に多いというところでございます。県内のいわゆる料理という状況を見ますと、特に有名なのは徳島ラーメンをはじめといたします五大麺、イケ麺セットというネーミングを付けて売り出したりしてございます。

また県南部のほうでは海の幸を生かしました海賊料理でありますとか、南阿波井、これも新しい南阿波井が二つできて、井サミットも大盛況であった。また県西部のほうへ行きますと、お酒なんかを使った、女性に人気のお美姫鍋みきなべという新しい料理の取組もされておるところでございます。

また、今の答弁にもありましたように、ハモ料理でありますとか阿波尾鶏おどりでありますとか、すばらしい食材はたくさんあるんですけども、これをどう調理をして名物料理として打ち出していくのか、高知のカツオのたたきに負けないような名物料理、これを食べに徳島に行こうというふうなものをやっていけるとか、今も徳島ラーメン等がありますけれども、もっと魅力的な物をどんどん作りだしていかなきゃいけないと思います。

そこで、観光振興基本計画を現在第2期に向けて策定の作業をしておりますけれども、この中でも新たな食の名物、これをしっかりと市町村や関係団体の皆様の御協力も頂いて、徳島ならではの、また地域ならではの、これを食べたい、これを食べに行きたい、食べて泊まりたいと思っただけのような料理の取組ができますように、これからはしっかり頑張っていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

#### 井川委員

確かに料理は大事だと思います。私もおいしいものは大好きでございまして、本当に高知なんかはカツオのたたきだけを食べに行ったり、でもこういうのもやはり広域交流と言ったらおかしいですけども、とにかく人は動くし、きてもらえるということでございまして、阿波踊りできた時に食べたあの料理、「マチ★アソビ」できた時に食べたあの料理、忘れられんなあと、もう一回行ってみたいなあと思えるような料理、素材がいいのはもう分かってるんですよ、私だって家も農業をやってますし、素材がいいものはたくさんあるのは十分分かってるんです。やはりそれを生かして徳島に人を呼び込めるようなことをもっともっと考えていっていただきたいと思っております。

#### 重清委員

地域高規格道路についてちょっとお伺いします。

先日、地元で「未知フォーラム」、女性フォーラムということでやりまして、大勢の方に来ていただいて、その時に県土整備部、いろいろお世話になりました。その時に主催者が言っていたのが、もうこれが最後にしたいと、もうよそも全部道が付いとるし、もうここだけやと、路線も予算も何にも付いとらんのは。ということで早く付けてほしいと。本当に必要で、年々年々地震と津波が発生する確率が高くなってきておりますので、それに対する安心という意味でも来年度には必ず事業化できるかどうか、今の状況をお伺いいたします。

#### 神野高規格道路課長

阿南安芸自動車道、海部道路の取組と今後の見通しについてのお話だと思います。

海部道路につきましては、今年の夏に発生いたしましたような豪雨災害や近い将来、発生が危惧されております南海トラフの巨大地震の際には、県内唯一の幹線道路であります一般国道55号が寸断し、地域の孤立が懸念されるということから、海部道路の整備は正に

待ったなしの状況でございます。

いろいろな地域の方々からの御要望でありますとか、国への提言を経まして、平成25年度に牟岐町から高知県東洋町の野根までの区間が、計画段階評価の対象区間として認められてきて、これまで2回の四国地方小委員会が開催されてきて、ルート帯等の検討の議論がされたところでございます。

さらに、去る9月24日から10月22日には、地域の皆様や道路を利用される方の第2回目のアンケート調査や関係自治体、商工・観光団体等へのヒアリング調査が実施されるなど、計画段階評価の手続が順次、進められているところでございます。

今後につきましては、この調査結果を基に、四国地方小委員会での審議を経まして、国において概略ルートや構造等が決定される予定でございまして、県といたしましても速やかに計画段階評価を終えるよう、引き続き国へ働き掛けてまいりたいと考えております。

去る11月には県議会の四国横断自動車道、阿南安芸自動車道建設促進議員連盟並びに徳島自動車道整備促進議員連盟の先生方にも御要望いただきまして、国に対しまして、本当に力強い御要望を頂いたところでございます。また、先ほど委員からお話がありましたとおり、12月6日には「四国はひとつ“阿波のみち”女性フォーラム実行委員会」によりまして、「未知フォーラム2014 in 海部」が開催されてきて、海部道路の事業化に非常にたくさんの方々に参加されてきて、海部道路の事業化に向けた地域住民の皆様の気運も本当に高まっているところだと考えております。

県といたしましても、次の段階を見据えまして、事業化への手続を円滑に進めるために道路整備利用促進基金を活用いたしまして、アクセス道路の検討をはじめとする調査も進めてまいります。

こうした取組によりまして、本県におけるミッシングリンクの解消、正に命の道となり、そして活力の道となります海部道路の一日も早い新規事業化に向けまして、しっかりと取り組んでまいりたいと考えております。

## 重清委員

その時、元技監の大石氏が講師で、いろいろ言っていただきまして、遠慮することはないと、絶対必要な道路であり、付けるべきだということで、いろいろ後押しもしていただきましたけれども、本当に必要なんです、この海部道路は。ですけれども、何度も調査もして、海部道路という名前が付いてもう13年目ですか、私が初めて出てきた時に付きましたけれども。本当に事業化してほしい。これが本当に地元住民の切なる願いでございますんで、これから来年度に向かって何もせんというのでは、今までやってきて、知事も先頭に立って国土交通省にも要望していただいておりますし、これは、県が2割出すと言うんで、県がしますと言うて、付かないというのもおかしいと思いますんで、ここらは本気で試されておると思いますんで、よろしく願いいたします。

それと、現実の今の状態で、小松島の勝浦橋の所、あそこは対策は何も考えてないんですか、今。朝の渋滞がもうマンネリ化してすごいですよ。朝、私が飛行機に乗るのが9時半で、6時に出ても渋滞に引っ掛かります。とてもじゃないけど渋滞にかからないためには5時過ぎに出ないといけないんです。9時半に行くん、2時間で着きますよ。これ、年々年々渋滞がひどくなっているのに、あの勝浦橋、何も対策考えてないんか。交流、交流

と言いながら。あんなに朝夕がラッシュになってきとるのに、今、何も考えてないんですか、道路。

神野高規格道路課長

勝浦橋の渋滞対策というお話だと思います。

今、国におきましては、新直轄事業ということで、阿南から小松島、さらに小松島から徳島の間、高速道路、四国横断自動車道ということで整備を進めております。特に阿南から小松島間につきましては、小松島から北に比べますと2年ほど早く、平成15年の12月には事業着手いたしまして、今、用地も9割を超えるぐらいの進捗でございまして、工事もできる所からどんどん進めておるといことで、この整備を進めることによりまして、交通の分散とかを図れるのではないかと期待しております。

重清委員

だから今は対策は何もしてないんですかという話ですよ。勝浦橋でしょ、原因は。あそこへ行くまでが全部つかえて、あそこを過ぎたらまた流れますと。原因はここやないかと。これに対する渋滞解消は何も考えてないのか。高速道路が付いたら解消できますわなんていうそんな考えですか。あんなに渋滞していて何も策はないのかと。何か考えられないんですか、あの渋滞。どうですか、今ですよ。そんな、何年後に高速道路がいきますって言って。そこまでずっとあの状態ですか。年々ひどくなっているんですよ。今からでも検討してもらえませんか。これ以上今何もないんですか、手立ては。信号にしろ、何にしろ、何も手立てなしですか。お手上げ状態ですか。

久住道路局長

御指摘の勝浦橋の渋滞でございます。

国道55号の区間につきましては、私も常々、土日、平日にかかわらず、渋滞が続いておるとい状態は強く認識してございます。課長が申しましたとおり、四国横断自動車道の新直轄区間、この整備を早期に進めまして、そのバイパス機能の部分的な効果をいち早く発揮したい、この思いで今、用地交渉等、国の事業費を増額していただきまして取り組んでいるところでございます。ただ、それは非常に時間も、おっしゃいますようにたちまちの対策ではございませぬので、それにつきましては、まずは情報提供ということで、ソフト面で直轄の道路標示におきまして、渋滞の案内標示、これは現在もしておりますけれども、それを十分に周知していただくような道路交通案内とかそういったものをまずはしていくと、それと併せて周辺道路であります県道阿南勝浦線という道路もございます。ここにつきましても非常に交通量も多く、バイパス機能としても役割を果たしているところでございますので。ただ、その道路につきましても、勝浦川沿いの堤防の道路を走りますと、勝浦川と交差する所にもさしかかってくるので、そこは更に上流にあります野上橋等におきましての案内標示をできれば、そういった形で早めに国道をう回するような案内もできればと、これはいろんな方法があると思いますので、できるだけ効果が発揮できるように、国のほうとも相談しながら、渋滞ポイントのできるだけ早い対応を考えていきたいと思っております。

### 重清委員

そしたらね、原因は何か分かってるんですか、あの渋滞の。日亜化学かなと思ったら違いますよ、動きは。何であそこは年々年々渋滞が増えていきよるか、どういう理由であそこが増えていきよるか分かって、ですから次はこういう対策をとりますと言うんだったら分かるんですよ。何であそこは今渋滞が増えていきよるんですか。

### 新居道路政策課長

やはり決定的な理由と申しますのが、勝浦川を渡河する断面が決定的に不足しているという根本的な問題があるものと認識してございます。年々増えてきている理由については、申し訳ございませんが、ちょっと把握してございません。

### 重清委員

これはほんとね、朝夕だけやない。今、あそこの渋滞は土曜も日曜も一緒ですよ。何かあるやると、それが分かった上で何か対策をしてもらわなったら、分かりませんと、年々増えていきよりますと。とてもやないけどこんなに時間の読めない道路では、県庁へ来るのも大変、みんな徳島へ行事に来るのも大変ですよ。夕方にこようとしたら何時間前に出ないかんかという、今そんなになっていますよ、徳島へ来るんでも。何かそれ、原因を突き止めて、対策をちょっとでも、これしたらできんかないうのをしてもらえませんか。本当に何かしてくださいよ、検討してくださいよ。国土交通省と話をするんだったらしてください。ちょっと異常ですよ、あの渋滞は。本気でやってください。要望しておきます。

それと、農産物の販路拡大というのが調査事項にあるんですけれども、これ、農林水産部はどのように販路拡大を広域でやろうとしているのかお伺いいたします。

### 丸谷もうかるブランド推進課長

広域交流におきます農産物の販路拡大ということでございます。

二つの面がございます。一つは、やはり高速交通ネットワークの整備を生かして、いかに大都市に多く徳島県産物を売り込んでいくかという視点でございます。これは、陸路、それから空路、合わせてでございます。それからもう一つは、逆に、県外から来る観光客等に徳島県内でいかに徳島県の農林水産物を消費していただくか、買っていただいて味わっていただくかという、大きく言って二つの視点があると考えております。

そういった点で、先ほども少し申し上げましたが、地産地消協力店等で県外のお客さんに対してPRしていく、大都市につきましては、「新鮮なっ！とくしま」号、あるいはイベントへの出展、メディア戦略というものを活用してPRし、販路拡大に努めておるところでございます。

### 重清委員

ブランドとかいろいろな販路拡大で売っていただくのもいいんですが、今、現実に困っているのがお米です。米が今JAの倉庫に残っとるんでしょ。そして価格が上がらんでしょ、原因はここでしょう。それに対して、徳島の米を売れるのかどうか。ほらスタチやって



一緒ですよ。どうやって売って価格を上げたんだと。それをどんどんするべきちゃうんかと。本気でやっていただけますか。それをやらんと何でもかんでもやりますやります言うたってできんじゃないかと、今現実困ることに対して。徳島県の農家、困っております。そういうことに対してどうやってやっていくんだと。現実に抱えとる問題点についてどうするんだと、まずしたらどうですか。来年度からこうすると言うんじゃないくて、今現実に困ってるんでしょ、みんな。そういうところから手を付けていただけませんか。

丸谷もうかるブランド推進課長

徳島のお米についてでございます。

これにつきましては、これまでは早場米地帯ということで、どちらかというブランドというよりは早さで売るといようなことで進めてまいりました。それで価格維持も競争力も付いてきたと考えております。ただ、年々、お米の消費、これはもう一人当たり、ピークですと年間120キログラムぐらい食べておりました。それが60キログラムぐらい、半分減っております。こういった中で、作りやすい米を作っておるとい現状でございます。それが今の在庫の積み上げになっておると考えております。

徳島の米をいかに売っていくかというところで、やはりこれにつきましても、徳島の米の良さと言いますか、今までの早場米としての売り方とは別の売り方をしていかなければならないと考えております。スダチにしても鳴門金時にしても、それぞれ販売上の課題というのは違ったものがございます。そういった個別品目の課題解決と言いますか、どういったところに課題があって、どうすればいいのかというものは、しっかりと系統団体と一緒に、我々もどういったところに力を入れていかなければならないのかというものをしっかりと検討して、そういったところに集中して施策を打っていきたいと考えています。単に、徳島米ということでブランド化していけば売れるというものではないと考えています。それぞれの地域のお米の良さをいかに引き出すかと考えております。お米の良さを引き出した上で、いかに消費者にその良さを分かっていたいただけるかというところだと思います。それにつきましては、お米で例えば5キログラムの袋で売るのがいいのか、あるいは今、個別包装で2合の袋とかいろいろ売られております。そういったもので売っていくのがいいのか。あるいはインターネットで売るのがいいのか、お米屋さんで流すのがいいのかというようなことを含めて、系統と一緒に検討していきたい、また手を打っていきたいと考えております。

重清委員

しっかりと取り組んでいただきたいと要望しておきます。

最後に、先ほど北島委員が言っておりました阿波おどり空港のことで、あの増便になったのは今年からですか。

岡本交通戦略課長

12便になりましたのは本年の3月30日からでございます。

重清委員

そしたら、今の話聞きよったら、外国航路の去年やった香港とかいろんなんはもうできんと、それが原因でできんということですか。

岡本交通戦略課長

現在のダイヤでは、朝夕の時間帯を除きまして、国際チャーター便の発着枠の確保は難しいという状況になってございます。ただ、航空のダイヤにつきましては、半年に一度変わってくるということもございますので、そこら辺の状況を見極めながらの対応になるかというふうに思っております。

重清委員

ということは、今ある全日空と日本航空の便を変えない限り、外国便の発着はできんという話ですね。

（「違う違う」と言う者あり）

違うん。

（「できる」と言う者あり）

それと、今北海道の便、やりよるでしょ、あれ以外の時はいけんのですか、夏だけでしょ、あれ。そこら、今までの話で、何で外国便ができんかと言ったら、そういう今北島委員が言いよったような整備の関係があったけんね、そうかなと思ったら、先ほど聞きよったら、増便をしたからできませんと言う、そしたらずっとできんやないかという感じに思ってきて、どこが問題があって、それが分からなんだんかという、聞きよったら分からなかったんですよ、何でか。

岡本交通戦略課長

国際便の発着枠の確保が難しくなっている要因というところがございますけれども、国際便の場合でありますと、出入国の手続などに時間を要することから、駐機場の空き時間が国内線に比べて長く必要になるというところがございますけれども、徳島阿波おどり空港につきましては、ボーディングブリッジを備えました駐機場が二つしかないという状況もございまして、その二つしかない駐機場が、今東京線の増便でありますとか、そういったところで使用されている時間が増えまして、結果として朝夕の時間帯を除いて、国際便の駐機時間の確保が難しくなっているという状況でございます。したがって、今の施設、今のダイヤではなかなか難しいというところがございますので、そういったところを解消するという意味で、今調査のほうを行っておると。そういったところを解消するためにどういった施設整備が必要なのかということも併せて検討しているという状況でございます。

重清委員

ちょっと分かりにくいんですけど、空港会社との話で決めとんどでしょ。その時に徳島県が外国枠を取りたいから変えてくれという話をするんですか。今、県としてはどういう方向でおるんですか。今の東京便を大事にしたいというのか、外国からの発着枠を何としても確保したいというのか、県の方針をまず決めないかんのですよ。そうではないんですか。

岡本交通戦略課長

国内線のダイヤとの関係というところがございますけれども、チャーター便につきましては、いつ話があるかというのが分からないところがございます。国内線の定期路線につきましては、いつも県民の皆様方に御利用いただくというものでございますので、まずは国内線のほうを優先していくのかなというふうに思っておるところでございます。

重清委員

今言いよったような整備でいけるかどうか、阿波おどり空港で今言いよったように、外国からの人たちが時間がかかるというんで、一つの機が発着する所を作ったら、本当にその整備だけでいけるんかと。別の発着枠をなんぼ全日空とか日本航空が増えてもそれさえできたらいけるんかという話ですよ。そうでないと言うんだったらそうでないと言って。何が問題なんかなというの、今から検討しますと言うけれども、当初の予算でさえ凍結して使わんというんやったら、もう分かつとるやろと。今から検討せないかんのかと、今まで何しよったんかと、1年ぐらいかけて。それはもう絶対枠としては無理ですよというのか、枠はあるんやけど、去年に予算計上しとるやつさえ凍結せないかんのか。これしたらできるわけではないやないかという話になつとるんやけん、一体問題は何かとこののが見えんのですよ。これは課長だけが考えるのか、県としての考えを聞きよるんですよ、今。課長が簡単に答えよるけど、そういう方針ですか。

岡本交通戦略課長

ちょっと言葉が足りないところがございまして、説明が不足してございました。申し訳ございませんでした。今の空港施設でございますと、国際便を留める所が物理的に確保できないというところもございまして、そういったところも含めて国内定期路線のダイヤを優先している関係で、なかなかチャーター便の発着枠が朝夕を除いて難しいという状況でございます。したがって、そういった状況を解消するというところでございまして、国際チャーター便なり国内定期便の更なる路線拡充という可能性もございまして、そういったところがきちんと飛行機が留まれる場所を作って、ターミナルへの動線を確保することが一番の問題解決のために必要なことかなと思っております。

ただ、そういったところで、どういった施設を整備して、どういった配置にするのが本当に機能的なのかというところを調査して、十分に検討する必要があるでございますので、今その調査を行わせていただいておりますし、今年度予定をしておりました税関取調室でありますとかお手洗い、こちらにつきましても必要な機能ではございますけれども、こういった形で整備していくのが本当に機能的なのかというところを調査する必要があるでございます、今、こちらのほうに鋭意取り組んでおるところでございます。

重清委員

そうしたらまた元へ戻つとるでないけど、当初に組んだあれさえしたら受入れはできるんですね、外国からの。まあまた話はせないかんですよ、香港とか中国とかいろんな所と。とにかく最初、当初組んどった予算のああいう整備をしたらいけるということでよろしい

んですか。最初の話では、日本航空、全日空の発着枠のあれがあるからできませんというような話をしよったんですけれども、整理してきちっと。ちょっと分らないのですよ。観光としては外国から誘客も必要やないかと。そのためだったら整備もしたらどうかと、それが今止まるとると、徳島県は。だから原因は何だと。どれが原因で進まんのかというのを知りたいんですけれどもね。北島委員の質問のところでは何か最後が分かりにくかったんですけど、どうして止まっているんだというのが。年内に何を決めるんなと。こういう当初で組んどった予算さえ。その代わり、予算さえ執行したらできるんかどうか。これはどんなんですか。

#### 岡本交通戦略課長

今現在でも、いろんな条件が合えば、国際チャーター便の誘致ということも可能ではございますけれども、空港施設の限界がある中で、いろいろ国内線のダイヤ、入国管理局なり税関なり、そういったところのいろんな調整が必要になってくるというところで、いろんな制約がある中で、そういった制約がありますとチャーター便誘致の可能性が限られてくるということもございますので、そういったところを解決するというところに当たって、どういった施設が必要なのか、またどういった施設整備をするのが効率的なのかというところを検討させていただいているというところでございます。

したがって、今年度実施をすることと予定しておりました二つの機能につきましては、チャーター便の受入れということについては必要な機能ではございますけれども、プラスでどういった機能が必要なのか、またそれらと併せて整備をしていくのが本当に効率的なのかというところを十分に検討する必要があるということで、今年度の着工を留保させていただいているという状況でございます。

#### 重清委員

これ結局、チャーター便をやるかやらんかでしょ。今それを県が検討するという話ではない。今いろんなことをして、チャーター便のそれをやってまで、まあ言ったらメリットがあるかどうか、外国の飛行機を入れられるかどうか、ではない。それとも、やるんは間違いなくやるんで、問題点を解決しにいきよるんか。そこらの県の姿勢が、一番最初の大事なやつが今分らないと言うんですよ。それがどっち向いとなんというんが。どうしても呼んでくるんやと、そのためにこれをするために時間を下さいと言ひよるんか、いろいろ検討して、ちょっと無理ですからやめましょうかという方向に行くのか。そこが見えんでしょって言うんですよ。決まっているんですか。

#### 岡本交通戦略課長

国際チャーター便の誘致につきましては、県外からの誘客ということもございます。また、県民の皆様方の海外旅行への手段ということもございますので、こちらのほうは進めていくというところでございますし、また、国内定期路線の充実というこちらのほうもしっかり取り組んでいかなければならない課題というふうに考えておまして、これは国際便の対応の機能もそうでございますし、国内線の機能の強化というところも必要になってくるというところでございますので、これらを合わせてどういうふうに機能強化を図っ

ていくのが適当なのかというところを今、調査をさせていただいているというところでございます。

#### 重清委員

まあいろいろ検討してもろうて、どっちになろうが成功してください。これだけ時間かけとるんやけん。検討しましたわ、失敗しましたわでは話にならんけんね。これだけ当初予算も凍結してやっとるんやけん。それぐらいの気でおってください。しっかりと調査するんやったらしとってください。もうあと3か月ですよ。次の議会には、委員会にはしっかりした答弁ができるよう検討しとってください。

#### 川端副委員長

観光のためには、インフラの整備が非常に重要だと考えています。

そこで、道路整備についてお尋ねします。この道路は鳴門スカイラインという道路でありまして、鳴門公園の中にある観光道路と言ってもいい道路ではないかと思えます。このところ、来年の架橋30周年でありますとか、花博でありますとか、淡路、鳴門をめぐるいろいろな催物がこれから予定されております。そうしたときにマイカーで淡路、徳島にこられる方が多くなるわけですが、その時に鳴門公園の魅力の一つであります鳴門スカイライン、このスカイラインの現状が、かなり地域の方、そしてまた観光客の方々から不評であり、そこでまず鳴門スカイラインの現在の通行台数の状況についてまずお伺いします。

#### 新居道路政策課長

鳴門スカイラインの通行台数についての御質問を頂きました。

鳴門スカイラインにつきましては、昭和48年8月に鳴門有料道路として供用されたものでございます。正に観光道路でございまして、若干古いんですけれども、平成22年度の交通量調査によりますと、1日当たり1,300台程度の交通量となっております。

#### 川端副委員長

1日1,300台っていったらこれはそこそこ通っていますね。台数によって当然傷みもひどくなると思えますけれども、道路の傷み、それから補修の状況について、県はどのように現状認識をされておりますか。

#### 新居道路政策課長

当路線の補修の状況についての御質問でございます。

まず、重要構造物としての橋りょうでございますけれども、他の路線と同様に、5年に一度の定期的な点検を実施いたしまして、この点検結果を基に橋りょうの長寿命化計画に反映させまして、計画的な修繕を実施しているところでございます。

最近では、小鳴門新橋をはじめ、四方見橋などで橋りょう修繕を行っているところでございます。

それから、舗装についてでございますけれども、当路線は正に観光道路でございますので、本県にとっても非常に重要な路線ということで、一般の路線よりも高い水準を確保す

る必要があると認識しております。そこで、計画的な舗装の維持修繕を行うために、今年度、ひび割れ率でございますとか、わだち掘れの深さといった舗装の路面の性状調査を行いました。この結果を基に、損傷度の高い箇所から順次修繕を行っていきたいと考えております。

それからちょっと細かいところでございますが、標識でありますとか道路照明などの道路の附属物につきましても、昨年度より点検を継続してやっております、今年度中に調査結果を取りまとめまして、腐食等が見られる老朽化の高い箇所から順次修繕を実施していきたいと思います。

今後とも、観光路線である当路線の適切な維持管理に努めまして、観光道路としての役割が十分果たせるように取り組んでまいりたいと考えております。

#### 川端副委員長

道路についてはよく分かりました。鳴門スカイラインにはトイレが数箇所ありまして、景観を楽しむための休憩所、そこにトイレが二、三か所あったんじゃないかと思いますが、このトイレが大変汚い状況になっております。それと、昔はレストランなんかをやっておったドライブインのような施設がもう廃きよのようになっています。もうほとんど形をとどめないような状況もあります。こういった道路以外の附帯設備の状況はどのように認識されていますか。

#### 仁木観光政策課長

鳴門スカイライン沿線の公衆トイレについてでございますけれども、現在、供用されている箇所が1か所ございます。眺望のいい四方見展望台というちょうど一番てっぺんの部分にございます広い駐車場のある部分がございますけれども、ここの展望台に1か所ございます。これは鳴門市の所管の公衆トイレでございます、ここにつきましては、水洗化もできておりますし、使用に支障もない状況で供用されてございます。

ただ、この沿線には以前に供用されておりましたが、現在は使われてないトイレというのが2か所ございます。1か所は、鳴門市所管のトイレでございます、もう1か所が、これは県民環境部、自然公園の関係の所管のトイレ、これは県でございます。この2か所がでございます。

この2か所につきましては、現在使用されていないという状況でございますので、トイレの出入口を封鎖して、人が入れないような対応をさせていただきます。もしできましたら、こういったものにつきましても、周辺の問題とかもございまして、使用しないのであれば、できるだけ速やかに撤去するなり、そういった対策が必要になると思いますので、それぞれ所管の部局ですとか、鳴門市などにも要請をいたしましたり、連携をいたしまして、ホスピタリティが守られますように適正な維持管理といったことにつきまして、共に取り組んでいきたいと思います。

#### 川端副委員長

道路は県道だから県の施設、県の責任で整備すると。そしてトイレは鳴門市の部分もあれば、徳島県の設置の分もあるということですね。休憩所が何箇所かあって、それぞれ

のトイレは所管が違っていると、こんなことのようなのですね。いずれにしても、観光地ですからね、トイレがきれいかどうかというのは評判に関わるわけで、是非鳴門市とも連携をとって、そういった整備を進めてもらいたいと思いますが、やはりこれは、今、観光条例の中で基本計画等があると思うんですが、そういった中にきちっと位置付けられておるのか、おられないのか、そのあたりはいかがですか。

#### 仁木観光政策課長

御提案を頂きましたとおり観光客の皆様に満足して旅を楽しんでいただくためには、公衆トイレが清潔であるということが、受入環境の整備ということで非常に重要な要因でございます。そうしたことで、県では、例えば剣山の山頂のトイレ、エコトイレでありますとか、こちらの所管は県民環境部です。それから南阿波サンラインでの駐車場のトイレ、これは南部総合県民局でございますけれども、それぞれの部局におきまして、県が設置するトイレ、これの新たな整備と言いますか、適正な整備といったことで取り組んでいるということも聞いておるところでございます。

観光所のトイレは、県の設置とか、市町村の設置とか、場合によりましたら民間事業者さんが施設に設置をされると、いろんなケースがございます。それぞれの管理主体がございまして、やはりそうしたところがしっかりと連携をさせていただきまして、観光客の皆様に、ああ気持ちいいなと楽しんでいただく、そして、また気持ちよく帰っていただいて、リピーター来県にもつながるというためには非常に重要な部分であると思っております。

御提言を頂きました観光振興基本計画、これは第2期の計画、来年度から4年間、現在策定の作業中でございますけれども、ここの中に今回、御提案いただきました趣旨を踏まえさせていただきまして、おもてなしの向上といったことが図られますよう、その趣旨につきまして盛り込んでいければと考えております。

#### 川端副委員長

これまで盛り込んでおらなかったということですね。これからは是非盛り込んでいただきたいと思っております。

最後に、県警の方にあそこの問題として、オートバイ、単車がですね、猛スピードでスカイラインを走るということがよくあるんですね。いわゆる暴走族って言うんですか、そういうふうな方がセンターラインを超えて、縦横無尽に走って行きますからね、ですから、いろいろポールなんかも立てて、防止はしておるんですが、それがなぎ倒されたり、そういう現状があります。そのことは、御認識ありますか。鳴門スカイラインの暴走族の件。

#### 今井刑事部長

主管のことではないので、正確には把握いたしておりませんが、従前は、非常に景観のいい特殊な道路でございますので集団暴走の共用場所になっておったと。暴走族の取締りも、鳴門公園周辺から関連道路、県において継続して取締りをやっておりましたが、現在は単発的に走行する車両は恐らくあるかも知れませんが、そういった集団暴走がございませんので、定期的な取締りというのはやっておられませんけれども、日常、所轄あるいは交通機動隊のほうで警ら活動をやって、指導等取締りに当たっておるところでござ

ざいます。

#### 川端副委員長

通行量が多いとなかなか思うように走れませんよね。しかし、その利用が少ないということもあって、暴走族のメッカとなった時代がありました。今は確かに以前のようなことはないんですが、やはりあそこで乱暴な運転をする方がいまして、当然、ポールなんかをなぎ倒しますから、道路の設備を破損したりということもあると思うんで、是非今後とも、その道路の利用状況の中に、ああいうふうな無謀運転というのが起こらないように、これからは是非気を付けて見ていっていただきたいと要望しておきます。

私が今日質問したかったことは、観光のインフラとして非常に重要な観光道路の整備について、所管からは、優先度も高いんでしっかりと整備をしていくというふうな御答弁を頂いたと理解をしておりますので、どうか観光政策と一体となって、マイカーがどんどん、魅力あるスカイラインだということで、たくさんの方が利用していただけるようお願いを申し上げまして、質問を終わります。

#### 中山委員長

ほかに質疑はございませんか。

（「なし」と言う者あり）

以上で質疑を終わります。

これをもって、広域交流対策特別委員会を閉会いたします。（12時10分）